令和３年度　第２回　大阪府立西淀川支援学校　学校運営協議会　議事録

令和３年１１月２４日

大阪府立西淀川支援学校

１　開催日時　　令和３年１１月２４日（水）１０：００～１２：００

２　開催場所　　府立西淀川支援学校　２階　図書室

３　出席者（委員）　山中委員、大槻委員、西野委員、畑森委員、小川委員、生柄委員

　　出席者（学校）　大角校長、矢野事務長、藤原教頭、苅谷教頭、西田首席、山田首席

　　傍聴者　　上久保様

４　協議資料　　「令和３年度学校経営計画及び学校評価（中間報告）」について

〇議題

・「令和３年度学校経営計画及び学校評価（中間報告）」について

・「学校教育自己診断」について

・その他

〇協議内容・承認事項等（意見の概要）

「令和３年度学校経営計画及び学校評価（中間報告）」について

今年度当初に掲げた「学校経営計画」の「中期的目標」に関して、校長より報告をしました。

校長：本計画に関しましては、昨年度の計画に追記する形で作成をしている。

中期的な目標の５つのキーワード

①　効果的な教育課程の編成

・シラバスの作成に関しては、府教育委員会の主導のもと３年前から作成をはじめ、ほぼ完成している。「令和３年度大阪府立支援学校教育課程に関する説明会」にて、シラバス実践事例を平尾首席より報告（動画配信）した。高評価をいただいている。ただ、その内容をそのまま実践してしまう傾向があるので、指導内容に対するやわらかさや広がりをどう理解していくか、どうアレンジしていくかが新たな課題となっている。

②　児童生徒の実態を踏まえた教育活動

・進路指導部において、全学部対象に夏季休業期間中に事業所を体験できる機会「夏休み福祉事業所見学及び一日体験」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり残念であった。

・児童生徒の作品や授業の取り組みを紹介する「西淀ギャラリー」については、保護者や来校者に随時公開し、1月に実施した作品展に向けて、作品を入れ替えている。拡充してきている。

・スポーツ交流（ボッチャ）については、新型コロナ感染症の影響で一時はクラブ活動の実施ができず、再開できたのは１０月からであった。８～９名の児童生徒が参加し、今年も「ボッチャ甲子園」に参加。参加人数も増えてきている。ただ、単独で下校できない児童生徒をどうするかという問題があり、放課後デイサービスが迎えに来てもらうことで参加できている場合もある。

③　高い専門性と授業力の向上

・アセスメントチェックリストに関しては、高い評価を得ており、本校のニーズにも合っている。

・今年度の全肢研（富山大会）の分科会において、本校から移動支援機器の実践発表を行った。（web発表　全国配信）学習段階表も作成できている。

④　地域のセンター校としての役割の強化

・交流学習は、今のところ実施できていない。今後相手校に働きかけを行っていく。交流学習自体は、障がい者理解を深めるための一助となるもの。

⑤　地域との連携、安全・安心な学校づくり

・防犯・防災に関しては、「防災体制構築PT」により、PTAと連携を深めながら、形が整ってきている。今年度、児童生徒が２グループに分かれて、医ケアが必要な児童生徒は千船病院へ、その他の児童生徒は西淀工場へ避難した。

・ブログ更新の手続きを簡略化することにより、更新が円滑になった。情報発信への意識が変わってきている。校長ブログは、年間５０～６０回あげている。

・今年度４月に、新型コロナ感染症の影響で１０日間臨時休校となり、申し訳ございませんでした。６月から、教職員のワクチン接種が進み、本校においてもほぼ全員が接種済みとなっている。中高等学部の生徒も十数名の生徒が接種済みである。現在のところは沈静化している。

（委員より）自身の施設でも、コロナり患者の情報を、風評被害に備えて、性別までは公開している。濃厚接触者には個別で対応している。守秘義務があるので、詳細の公開はできない。いつかインフルエンザと同じ扱いになると思う。そうなると情報提供しやすくなると思う。

（委員より）「福祉」と「医療・教育」を比べても、先生や職員の数が全然違うことから見てもわかるように、国の関心の度合いが違う。福祉は生涯にかかわることなのに。来年度から入所を考えている保護者からも「学校を卒業するのが怖くなってきた。」と言われる。基本的に違うということをご家族に理解してもらうためにも、小学部のうちから福祉の実態を知ってほしい。また、複数の箇所へ通われている方に関しては、１週間あたりの通所回数も減ってしまうので、直接本人と関わらないスタッフさんも出てくる実情も知ってほしい。

（委員より）あえて、「進路」という言葉を使わないほうが、小学部や中学部の保護者の関心を引くことができるのではないか。保護者の考え方を変える必要があるように思う。

（委員より）「勉強会」のようなやんわりとした表現で始めて、１ステップ、２ステップと踏んでいただけたらいいのでは。

（委員より）新型コロナウイルス感染種の影響により、運動会等に保護者が参加することができなかった。個人情報保護の観点から、ビデオも見せていただけなくて、写真のみだった。ビデオや写真に写りたくない児童生徒がいるのはわかるが。担任から、「本人の活躍を見て感動しました！」と言われたが、私も一緒に感動したかった。学校生活最後の運動会なので、残念に感じる。今後はできる範囲で、何らかの形で検討してもらいたい。

学校教育自己診断について（山田首席）

・概ね９０％以上の評価をいただいている。

・授業づくりに関しては、シラバスやツールが整ってきているが、小学部教員からの評価は高かったが、中高等学部教員からの評価は低かった。小学部の教員は新任が多いのに対し、中高等学部は他校からの転勤が多かったので、教員の負担感が強かったからではと推測される。

・引継ぎに課題がある。

（委員より）学校現場での引継ぎや連携が大切だと思う。日々の学習内容に活かしていく「協働」が大事だと思う。

（委員より）進路学習について、「うちの子は生活介護だから…。」とあまり積極的ではない保護者もいる。子どもが小学部のうちから、進路に意識を向けてもらうことは難しいが、成長の段階に応じて徐々に意識できるような機会を設けていったほうがいいのではないか。